

サマリー

新たな環境変化に直面する OPEC

石油グループ 研究主幹 前田 智広

1960 年に OPEC（石油輸出国機構）が設立されてから既に半世紀以上が過ぎ去った。しかし、往年の OPEC の影響力に比べれば、最近の OPEC 総会の動きを見るに、石油価格の決定権は既に OPEC の手を離れ、基本的条件としての生産割り当ての為の結合力すら失っているのではないかとも思える。OPEC は創立以降、半世紀以上にわたって常に激動の国際石油市場の荒波にもまれてきたが、ここへ来てまた原油先物の金融商品化や非在来型石油開発の進展、中東情勢の不安定化に伴う OPEC 内対立、天然ガスのシェアの拡大等々、新たな環境変化に直面している。本稿では、OPEC が直面している新たな環境変化を概観し、OPEC の今後と日本にとっての OPEC を考察した。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp